

## 一 日之影町総合教育会議 議事録 一

日時：令和6年11月22日(金)15:00～  
場所：日之影町町民多目的ホール

出席者：町長、副町長、総務課長、人事・給与係長  
教育長、木下委員、森山委員、平野委員、甲斐委員  
教育次長、参事、学校教育係長、指導主事

(進行：総務課長)

町長挨拶 略

教育長挨拶 略

### 協議事項

#### 1) 全国学力・学習状況調査から見る本町の教育的課題について

教育長：今年度は、7月18日に小学6年生の国語と算数、中学3年生の国語と数学が実施。結果は、特に小学校の結果が大変良く、中学校は平均値であった。テストを受ける人数が少ないので、そのときにより平均が上がったり下がったりするのは、ある程度考慮しなければならないと思っている。  
学校の先生方には平均ではなく、児童生徒一人一人の伸びがどうだったのかをしっかりと押さえるようお願いしている。

指導主事： 町内小学校6年生の結果は実施しました学校3校と実施児童が21名分。国語科は、目的また意図に応じて日常生活の中から話題を決め伝えられる内容を検討したりする問題、また資料を活用し自分の考えを相手に伝えるように表現を工夫するところに課題が見られる。学校においては、言語活動を子どもたちが一緒に学んだり、グループ、また全体の中で伝え合い活動などを通じて、様々な表現活動を行っており、行動で話すのではなく、具体例を使って相手に分かりやすく工夫するような内容を、日々の授業に取り組んでいく必要があると感じている。  
算数の結果は、数値的に全国平均を大きく上回っているが、課題がある。速さと時間と道のりの関係性を、公式を使って求めることはできるが、なぜそうなるか理由を言葉で説明することが苦手である。公式が扱えるが、現象を言葉で表すことがなかなか難しいという結果である。また、円グラフの特徴を理解し、

割合を求めることはできるが、それを円グラフ、棒グラフ、折れ線グラフ、いろんなグラフの中から、どこの部分を指していますかという問われ方をすると、途端にどこの数字かなということの手が止まってしまう。算数の時間に行われる数学的活動を通して、様々なグラフ、表、資料に触れながら、数学的活動を実施していく必要がある。自分の考えを述べる際に、必ず根拠となるものを指し示し、相手に分かりやすく伝える活動が必要と考える。

小学校は、学習活動の部分に大きな課題があると思われるので、各学校の分析結果を踏まえ、町教育委員会として対策を講じたいと考える。

なかなか先の見えにくい社会の中で、堂々とふるさと日之影のことを思いながら生活していくために、やはり将来の自分の目標、夢をしっかりと持つということは、極めて大事だが、低い結果となっている。

また、地域や社会をより良くするために、何かしてみたいことがありますか、という項目も、若干全国より低い結果となっている。何か対策をする必要があると考える。町内の小中学校の先生方を集めた、小中連携推進協議会において、本町のキャリア教育について、2年間かけて、見直しを図っているので、その成果も今後現れると期待している。また小学校5、6年を対象に、12月に職場体験学習の実施を計画している。町内のかっこいい大人に出会うために、いろんな業種の方々を宮水小学校にも集め、働く人たちの思い、プロフェッショナルな考え方、働き方、働くことの意義などを通して、子どもたちの将来の進路の選択、進路決定に影響を与えるような、体験活動やお話をさせていただくことを予定し、様々な手立てを打ちながら、次年度以降、上昇していけるよう進めていく。

町内中学校3年生の結果についても、国語はやはり小学校と少し似通った課題がある。話の内容を捉え、自分が何を話したいか、相手がどのような意図を持って話をしているかを、しっかり自分ごととして捉え、適切に質問をする。また、資料を用いて自分の考えをわかりやすく伝える工夫し話す項目について、若干課題が見られる結果でした。小学校と同様に言語活動の質を上げる必要があると考える。数学は、確率を求める問題、問題場面における考察の対象を明確に捉える。正の数と負の数の計算に課題が見られる。本質的な問いや根拠、理由を求められると、途端に手が止まるところは、小学校と似たような課題傾向があると感じる。

小学校、中学校それぞれではなくて、連携して教育に当たっていく必要があると考えている。

回答割合が高い項目について、非常に気になるところが、自分には良いところがあると思いますか、という項目。先行きが見えにくい社会の中で、自分の良さ、自分の強みが何なのかを、しっかり自分で認識し、様々な職業選択を図る必要がある。また、自分と違うことに耳を傾け、自分の考えと何が違うのか、その考えの良さは何なのか、そこから新しい価値を生み出すというような考え

方は、必要とを感じる。課題の解決に向け、問題が解けたとしても、良しとするのではなく、他のアプローチ等を自分で考えていくたくましさも必要になることを表している結果と考えている。今後もキャリア教育を中心に、次年度は英語教育も力を入れていこうと、教育委員会は検討している。

町 長：昔と今の勉強方法の違い、公式や英単語を覚えればよいというわけではなくなっている。時代の流れがそうになっているということか。

教 育 長：以前は、知識理解が中心であったが、世界に通用するためにどう活用するかの段階になっている。

指導主事：今までは知識のインプットを大事にしていた。繰り返し反復して覚えることは今も大事である。現在は、その知識をどう活用して人間関係を取っていくか表現するかが社会に求められる。身につけた知識を使って相手が求めている形に変換して表現する力が求められている。

教 育 長：知識を持っているだけでは通用しない社会になっている。知識を活用してたくましい子供達を育てる時代になってきている。

次 長：日之影町の子供達は積極的である。恥ずかしがり屋と思っていたが国際交流でも積極的に話しかける。そのような子がグローバルな社会へ飛び込んでいく。英語力は非常に重要と考える。

副 町 長：項目の中に「自分には良いところがありますか」という項目があるが、子ども計画を策定する際のアンケートにも同じような項目があり「自分に価値がある人間と思うか」「将来に夢があるか」と言う項目にないという回答が見られショックだった。自分に価値があると思う子になってほしい。

平野委員：中学の子どもと話しますが、そのような事は言わないので家族間でコミュニケーションが取れていると感じている。

甲斐委員：日之影町の子は才能あるのに自信のない子どもが多く感じる。

木下委員：選挙の投票率を見ても、自己肯定感が足りないように感じるし、責任を若い内から持つような作りが必要と感じる。

## 2) 学校施設整備計画について

### 社会教育施設及び保健体育施設の整備計画について

教育長：昨年度、中学校のエレベーター設置を含むバリアフリー化は、ご理解とご協力により、無事に完成。生徒はもちろんのこと、来校されたお客さんたちも、非常に便利で快適な中学校生活を送ることができている。それ以外にも、老朽化や LED 化等により改修を必要とする校舎がいくつかある。社会教育施設も同様に、避難所に指定されており、町民が日頃利用している施設で、改修や LED 化が必要。

学校教育係長： 学校施設の整備については令和 2 年度に 10 年計画の学校施設整備計画を策定している。背景には小中学校校舎、体育館がすべて築 30 年以上経過しておりこれまでも耐震補強等の工事を行ってきた校舎を含め今後大規模改修など計画的な施設整備が必要となってくる。

学校施設の非構造部材の耐震化も必要。令和 10 年までに重点的に取り組むべき対策とされており、耐震対策実施率 100%を目指す。

教育次長： 社会教育施設、保健体育施設についても公共施設個別施設計画が策定されている。今年度は、歌舞伎の館の LED 化工事、癒やしの森運動公園の操作盤の取り替えを実施中である。運動公園の LED 化は国スポ後に計画を変更している。

また、令和 7 年度以降水銀灯の生産の禁止、蛍光灯の生産禁止になるため各種社会施設の照明の LED 化が必要。避難所に指定されている施設から LED 化を進めていく。計画を踏まえ 10 年度に長谷川地区活性化センター、13 年度に小川平の健康増進センターの改修を予定している。12 年度に計画している高巣野研修センターは耐震化されていない事を踏まえ改修、建替を含めて検討していく。避難所、学校での使用を考えると前倒しも視野に入れて検討する必要がある。

町 長： 国スポの会場にも使用する。計画どおりで間に合うのか。財源が一番の課題と考える。住宅建設も行われる。

教育次長： 令和 9 年度に国スポが行われるので工事は完了予定。他の事業とバランスを考えながら事業を進めていく必要がある。

副 町 長： 国スポの練習会場はどうなるのか。LED 化も含めて計画出来ているのか。

教育次長： 宮水小学校体育館、歌舞伎の館、中央体育館を考えているが、中央体育館の

LED化だけが課題である。

総務課長： 学校の外壁の補助金は要望を出しているのか。

学校教育係長：今年度の辺地計画を提出し、2カ年計画をしている。  
補助単価の見直しも県を通じてお願いしているところである。

### 3) 国民スポーツ大会に向けた取り組みについて

教 育 長：令和9年度の国民スポーツ大会なぎなた競技の開催に向け、大会本部や県のなぎなた連盟と協議、先進地視察等を行い粛々と準備を進めている。全国規模の大会の準備を進めていく中で、様々な課題が山積している。試行錯誤している状況。ゴールの期日は決まっており、本町がやるしかないの、やるからにはしっかりやりたいと考える。町部局と連携、協力しながら準備を進めていきたい。

参 事：国民スポーツ大会開催にすることにより、町民スポーツへの関心をさらに高め、スポーツを通じて、町民の健康増進や生きがいつくり大きく寄与するとともに、本町の魅力を全国に発信する絶好の機会である。町民と一丸となって取り組むことにより、住むの喜びを実感し、笑顔あふれる光さすまち日之影をアピールしていきたい。

宮崎県の大会会期は、令和9年9月26日から10月6日までの11日間が正式に決定。本町で行われるなぎなた競技は令和9年の10月1日から10月3日までの競技日数3日間を予定し日之影中学校体育館で開催。リハーサル大会は第67回都道府県対抗なぎなた大会を国スポリハーサル大会とし、全日本なぎなた連盟との共催により令和8年の5月の下旬、2日間を計画、開催予定としている。

#### ◆視察報告

- ・佐賀県嬉野市
- ・栃木県壬生町（学校施設を活用）

### 4) その他について

学校教育係長：GIGAスクール構想について、本町は令和2年度にタブレットを購入し事業を行っている。近いうちに消耗品等の耐用年数を超えるため更新時期を迎える。本町は令和8年度に更新し、令和9年度に事業開始と考えている。

購入方法としては県の基金による共同調達を考えている。

令和7年度県内では、26自治体中19自治体、約5万台から約6万台更新される予定。令和8年度は、26自治体中14自治体、3万台程度が共同調達される見込み。

今後OSの検討、リースか購入か含めて本格的な検討を行っていきたい。